著者・編者紹介

著者（五十音順）

有松　遼一（ありまつ・りょういち）　能楽師（ワキ方高安流）。公益社団法人能楽協会会員。谷田宗二朗師、飯冨雅介師に師事。大曲《猩々乱》《道成寺》《張良》などを披く。大学の講義では能楽や和歌など古典の魅力を伝え、能が現代に生きる芸能・舞台芸術であることを問い続ける。

上野　正章（うえの・まさあき）　京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員。音楽史専攻。専門は日本（近現代）。共編著に『日本伝統音楽研究センター研究報告七歌と語りの言葉とふしの研究』、『日本伝統音楽研究センター研究報告一三雅楽のイロイロを科学する本』。現在は、節の近代を研究している。

恵阪　悟（えさか・さとる）　帝塚山大学専任講師。国文学（中世文学）専攻。研究対象は能楽。特にワキ方の資料や演技。『観世文庫蔵能楽資料解題目録』（檜書店）の資料解題作成に参画。目下関心を寄せているのは福王家九世盛勝（雪岑）の画業。

河村　晴久（かわむら・はるひさ）　能楽師（シテ方、観世流）。重要無形文化財「能楽」総合認定保持者。同志社大学客員教授。十三世林喜右衛門師に師事。文化庁の文化交流使として、海外の多くの大学、美術館で講義、公演など、文化交流を行う。英語での授業、レクチャーデモンストレーションも多数。京都府文化賞功労賞を受賞（令和二年度）。

高橋　葉子（たかはし・ようこ）　京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員。音楽学専攻。研究対象は能の音楽技法。共編著に『謡を楽しむ文化』（日本伝統音楽研究センター）など。現在は、主に音曲伝書を通した能の音楽技法の歴史的研究に従事する。

玉村　恭（たまむら・きょう）　上越教育大学大学院学校教育研究科准教授。専攻は美学および音楽学。日本の伝統音楽を中心に、世界の音楽文化とその歴史、芸術観や美意識について広く見渡す研究を行う。著書に『おのずから出で来る能：世阿弥の能楽論、または〈成就〉の詩学』（春秋社）。

中嶋　謙昌（なかしま・けんすけ）　灘高等学校教諭、龍谷大学非常勤講師。日本文学専攻。研究対象は能楽。論文に「十八世紀の宮中演能」（『藝能史研究』二三五号）など。文学研究・国語教育を通じて能楽の観客を育てつつ、金剛流能楽師として実演・指導にも関わる。

長田あかね（ながた・あかね）　神戸女子大学古典芸能研究センター非常勤研究員。専門は、能・狂言を中心とした日本芸能史。論文に「観世元章と大徳寺派僧の交流―萬輝宗旭を中心に―」（『観世元章の世界』所収）など。現在は、主として近世能楽関係資料の調査研究に従事する。

永原　順子（ながはら・じゅんこ）　大阪大学言語文化研究科准教授。専門は宗教民俗学、日本文化学。能楽・歌舞伎などの伝統芸能、各地の祭礼、新旧の妖怪文化を通じて、日本人の思想を明らかにすることを目指す。「擬人化の原点について―見えないものを「見る」こと―」『進化する妖怪文化研究』せりか書房二〇一七、など。

丹羽　幸江（にわ・ゆきえ）　京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員、昭和音楽大学非常勤講師。日本音楽史専攻。能の謡の記譜法の歴史的変化、とくにツヨ吟とヨワ吟の変遷が研究の中心テーマ。著書に『日本音楽うた理論』（カワイ出版）、『復曲　和田酒盛』（檜書店）など。

坂東　愛子（ばんどう・あいこ）　京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター共同研究員。シテ方観世流師範。音楽学専攻。研究対象は、近現代における能の伝承性など。現在は、謡の実践的な音楽技法を中心に研究を進める。

編者

藤田　隆則（ふじた・たかのり）　京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター教授。民族音楽学専攻。研究対象は、能・声明などの中世芸能および音曲。著書に『能のノリと地拍子』（檜書店）など。現在は、日本の伝統音楽を普及・継承させるための応用的研究に従事する。

編集補助

荒野　愛子（こうの・あいこ）　京都市立芸術大学音楽研究科日本音楽研究専攻修士課程

成瀬はつみ（なるせ・はつみ）　京都市立芸術大学音楽研究科日本音楽研究専攻修士課程

日本伝統音楽研究センター研究報告 14

能〈羽衣〉を解剖する ― 音曲面を中心に

編　　者：藤田　隆則
発　　行：京都市立芸術大学　日本伝統音楽研究センター
印 刷 者：株式会社 田中プリント
発行年月：二〇二二年三月
定　　価：税込 2000 円
ＩＳＢＮ：978-4-910601-01-4